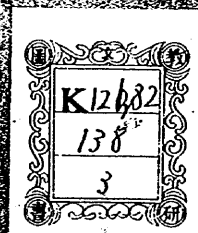


國語綴方練習書

三



K121. 82

138

3

啓發館編輯

國語綴方練習書三

東京書肆 神原文盛堂發行

例言

一 此書は、高等小學兒童の國語綴方練習書に充てんが爲めに編みたるものにて、全部四卷に別ち、一學年に、一卷を配當するものとす。

一 綴方は、讀方と密接の關係を保つものなれば、其材料は、主として、讀本より撰定したれども、また、他の歴史、地理、理科等よりも、宜しきに従つて、えりぬきたり。

一 現今、各府縣にて採用せる讀本は、四種類（金港堂、富山房、普及舎、集英堂の出版にかゝるもの）あり。由て、本書は、此中より、形式と内容とを取りて、文例を示したれば、何れの府縣の兒童が用ふるも、可なり。

一 小學校令施行規則に依れば、綴方は、一週二時間を課する規定なり。故に、一ヶ月を四週と見積りて、八題を挙げたり、且、文題を時候

に順應せしめて、應用練習に便ならしめたり。
 一類題は、應用を一層廣くせんが爲めに四種類の讀本中より類似の題を擇びて掲げたれば、兒童は、之につきて、適宜に自作すべし。
 一此書は、獨り兒童の應用練習に供すべきのみならず、教員の參考用書として、また適當なること論を待たず。

明治三十五年一月上院

編者識

國語綴方練習書第三目次

四月	(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)	建國 國體 忠 孝 伊勢參宮と約束する文 我國の風俗 金剛石 金剛石の御歌	一 二 四 五 六 七 八 十
五月	(一)(二)(三)(四)(五)	兵役 租税 税金の納入を依頼する文 朝鮮 支那	十一 十二 十三 十五 十六
六月	(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)	義勇 織田信長 豊臣秀吉 快氣披露の文 死去の廣告文 水 空氣 晴雨計 寒暖計 梅雨中友に贈る文 徳川家康	十七 十八 十九 二十 二十二 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八
七月	(一)(二)	日光 立志	三十 三十一

目次

八九月

(一)	忍耐	三十二
(二)	コロンバスの亞米利加發見	三十三
(三)	熱ノ作用	三十四
(四)	寫眞を贈る文	三十五
(五)	虎	三十七
(六)	獅子	三十八
(七)	西北利亞	三十九
(八)	南洋諸島	四十
(九)	歸宅を問合する文	四十一
(十)	釋迦	四十二
(十一)	孔子	四十三
(十二)	宗教	四十五
(十三)	平壤ノ戰	四十六
(十四)	黄海ノ戰	四十七
(十五)	質問に答へられたるを謝する文	四十九
(十六)	晉の傳達	五十
(十七)	太陽	五十二

十月

(一)	國民の心得	五十四
(二)	天然物の利用	五十五
(三)	建武の中興	五十六
(四)	交通貿易	五十七
(五)	汽車賃の割引を照會する文	五十九
(六)	蒸氣機關	六十
(七)	火藥	六十一
(八)	神戸より上海の航路	六十二
(九)	潮流	六十三
(十)	條約國	六十四
(十一)	紅葉	六十六
(十二)	看楓に誘ふ文	六十七
(十三)	稻刈	六十八
(十四)	新嘗祭	六十九
(十五)	徳川光圀	七十

十二月

(一)	美術	七十二
(二)	美術展覽會に褒賞を得たるを賀する文	七十三
(三)	運動	七十五
(四)	健康	七十五
(五)	大陸	七十七
(六)	大洋	七十八
(七)	歳暮の祝賀に答ふる文	七十八
(八)	光陰矢ノ如シ	七十九
(九)	國旗	八十一
(十)	四方拜	八十二
(十一)	紡績	八十三
(十二)	機織	八十四
(十三)	染物注文の文	八十五
(十四)	紫式部	八十六

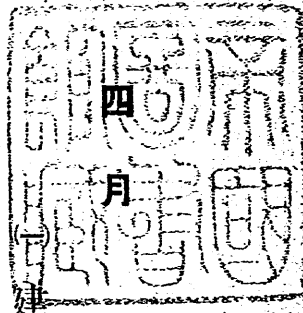
二月

(一)	火山	八十八
(二)	地震	八十九
(三)	公德	九十
(四)	公益	九十一
(五)	公園に樹木献納を圖る文	九十二
(六)	伊能忠敬	九十三
(七)	潜水器	九十四
(八)	輕氣球	九十六
(九)	病院	九十七
(十)	學校	九十八
(十一)	中學校の入學手續を問合す文	九十九
(十二)	幸福	百一
(十三)	節儉	百一
(十四)	貧富	百二
(十五)	世界一週	百四
(十六)	日蝕ト月蝕	百五

國語綴方練習書第三目次終

國語綴方練習書第三 高等小學第三年用

啓發館編輯部編



建國

- (1) 天照大神、此國を瓊々杵の尊に賜ひて、「汝就きて治むべし」と宣へり。
- (2) 瓊々杵の尊より、三世の間は、日向の宮に居ませり。
- (3) 神武天皇の御代に至り、東方の地の亂れを聞しめし、大軍を率ゐて、御親征あらせ給ひたり。
- (4) 遂に、中州を平け、都を、大和の橿原に定め給へり。

(5) 天皇の御位に、即かせ給ひて、建國の基を定め給ひたり。

右の句を、ほどよくつゞけて、一文となさい。

初め天照大神、此國を瓊々杵の尊に賜ひて、汝就きて治むべしと宣へり、斯て、尊より三世の間、日向の宮に居まし、神武天皇の御代に至りしに、東方の地の亂れを聞しめし、大軍を率ゐて、御親征あらせ給ひ、遂に中州を平げ、都を大和の橿原に定めて、天皇の御位に即かせ給ひ、建國の基を定め給ひき。

(二) 國體

- (1) 神武天皇、皇祖の御遺訓によりて、全國を平定し給ひしこと。
(2) 皇室は、總御本家たる如く、臣民の家は、分家の末たるが如きこと。

(3) 君臣の關係、本家分家の關係の如きこと。

(4) 天皇は、臣民を、子の如く愛し給ひ、臣民は、皇室を、父の如く、敬慕し奉ること。

(5) 我等臣民は、此國體の美を、益々輝すべきこと。

右のことがらによりて、普通文をつゞりなさい。

我國は、神武天皇、天照大神の御遺訓に基き、全國を平定せさせ給ひし時より、御本家たる皇室は、此國に君臨せられ、分家たる將士の一族は、臣民となりて、國內に分れ住めり。されば、君臣の關係は、本家と分家との關係に異ならず。故を以て、天皇は、臣民を子の如く愛撫し、臣民は、皇室を父の如く敬慕し奉る。されば、我等臣民は、務めて、此國體の美を輝かすべきなり。

(類題) 天津日嗣

(三) 忠

忠トハ、君ニ仕ヘテ盡スベキ節義ニシテ、一ニ大和心ト云フ。此心ハ、發シテ三韓征伐、弘安ノ役、日清戰爭ノ勝利トナリテ、武威ヲ輝シ、收マリテハ、父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ニ、朋友相信ズル美俗トナリテ、常ニ此國家ヲ保護セリ。

右の文を、數箇の短文に、分ちなさい。

忠トハ、君ニ仕ヘテ盡スベキ節義ニシテ、一ニ大和心ト云ヒテ、尊重セリ。

忠義ノ心、外ニ發シテハ、三韓征伐、弘安ノ役、日清戰爭等ノ勝利トナリテ、武威ヲ輝セリ。

忠義ノ心、内ニ收マリテハ、父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ニ、朋友相

信ズル美俗トナリテ、常ニ此國家ヲ保護セリ。

(四) 孝

凡ソ、世間ノ人々ハ、貴○貧○ノ別ナク、皆父母ヨリ出デザルモノナシ。一旦、生レテ世ニ出ヅレバ、父母ハ、晝夜油斷ナク、養育ニ○ナ碎カル、ナリ。●●●、子タルモノハ、能ク○○ノ教ヲ守リ、身ヲ○テ、家ヲ○シテ、父母ノ心ヲ安シ、以テ其○○ニ報ユベシ。之ヲ眞ノ○トハ●●ナリ。

右の○へ漢字を、●へ假名字を、入れなさい。

凡ソ、世間ノ人々ハ、貴賤貧富ノ別ナク、皆父母ヨリ出デザルモノナシ。一旦、生レテ世ニ出ヅレバ、父母ハ、晝夜油斷ナク、養育ニ心ヲ碎カル、ナリ。サレバ、子タルモノハ、能ク父母ノ教ヲ守リ、身ヲ立テ、家ヲ起シテ、父母ノ心ヲ安シ、以テ

其高恩ニ報ユベシ。之ヲ眞ノ孝トハイフナリ。

(類題) 忠孝

(五) 伊勢參宮を約束する文

暖かな時節となりました、あなた様にも、御壯健で、結構でございます。先達て、お話がありました伊勢參宮のことは、毎年思ひ立ちますけれども、いつも、差支が出来て、參宮が出来ませんで、残念に思ふて居た時でありますから、早速、父へ相談致しましたら、父の申しますには、よさお連れゆゑ、是非お供を願へとの事で、快く承知して呉れました。就きましては、私には、別段旅仕度する程の事もありませんから、何時出立しても、差支はありません、あなた様の御都合次第、御供致しますから、御出發の時日など、御聞かせ下されませ、お待ち申して居ます。

右の話を、手紙の文に改めなさい。

拜啓春暖の節に候處益御壯健賀し上候偕先般御話し之れあり候ひし伊勢參宮の義毎年思ひ立ち候へどもいつも果し申さず残念に存居候時とて早速父にも相談仕候處よきお連れゆゑ是非御同行を願へとの事にて快く承知致しくれ候就ては私方別段旅装を整へ候程にも之れなく何時にても出發差支なく候間尊君の御都合次第御供仕るべく御出發の時日等御申越されたく待上げ候頓首

(類題) 上方見物を約束する文

(六) 我國の風俗

我國ノ風俗ヨリ、太古ハ、幾タビカ變遷シテ、明治ニ至リ、斷髮ハ結

八
髪トナリ、烏帽子笠ハ、帽子ト代リ、祭典ノ外ハ、禮服モ、大方洋風ニ改メラル。家屋ハ、舊觀ヲ改メ、官省・學校ナド、西洋造ナラズ、食物モ間、洋食ヲ爲ス物アリ。要スルニ、便利・衛生ヲ主トスル風ハ、日々ニ盛ナラザルニ至レリ。

右の文中、文字・事實等の誤を見出して、正しなさい。

我國ノ風俗ハ、太古ヨリ、幾タビカ變遷シテ、明治ニ至リ、結髪ハ斷髪トナリ、烏帽子笠ハ、帽子ト代リ、祭典ノ外ハ、禮服モ大方洋風ニ改メラル。家屋ハ、舊觀ヲ改メ、官省・學校ナド、西洋造ナラザルナク、食物モ、間、洋食ヲ爲ス者アリ。要スルニ、便利・衛生ヲ主トスル風ハ、日々ニ盛ナルニ至レリ。

(類題) 家風

(七) 金剛石

金剛石ハ、炭素ヨリ成リ、無色ナルアリ、淡黄・褐色・青緑・紅等ナルアリ、磨ケバ光輝ヲ放テ、人目ヲ射ル。其產出少ク、質硬クシテ、世ニ貴重セラレ、價甚ダ貴シ。

右の文中へ、左のことからを加へて、文を長くのほしなさい

- (1) 炭素ハ、八面體、或ハ菱狀十二面體ニ結晶スルコト。
- (2) 色ハ、通常、無色ナルコト。
- (3) 粧飾品トシテ、貴重セラル、コト。
- (4) 硬キコト、萬物ニ冠タルコト。
- (5) 質ノ劣等ナル磨屑ニテモ、硝子切、鑛山ノ岩ヲ穿ツ料トシテ、貴重セラル。

金剛石ハ、炭素ヨリ成リ、八面體、或ハ菱狀十二面體ニ結晶ス。色ハ、無色ガ常ナレドモ、又、淡黄・褐色・青・緑・紅等アリ。其產

出極テ少ク、價甚ダ貴シ。此物、磨ケバ、光輝燦爛トシテ、人目
ヲ射ル、是レ粧飾用ニ貴重セラル、所以ナリ。其硬キコト、
萬物ニ冠タレバ、其質ノ劣等ナル磨屑スラ、硝子切、鑛山ノ
岩ヲ穿ツ料トシテ、用ヒラル。

(類題) 黄金

(ハ) 金剛石の御歌

金剛石も、みがかずば、たまのひかりは、そはざらん。
人もまなびて、のちにこそ、まことの徳は、顯はるれ。
時計の針の、たえまなく、めぐるがごとく、時の間の。
日かけ惜みて、勵みなほ、いかなる業か、成らざらん。

右の御歌の意味により、普通文をつゞりなさい。

金剛石ハ、琢磨セザレバ、瓦礫ト同ジクシテ、寶玉タルノ光

輝ヲ發セザルベシ。人モ、亦、此ノ如ク、學問ヲ研キテ、後チ、始
メテ、眞ノ徳ノ顯ハル、モノナリ。故ニ、時計ノ間斷ナク、回
轉スルガ如ク、一寸ノ光陰ヲモ惜ミテ、學問ニ勵ムトキハ、
眞ノ徳モ備ハルニヨリ、如何ナル業ニテモ、成就セザルコ
トナシ。

五月

(一) 兵役

我國ノ男子ハ、滿二十歳ニ至レバ、兵士ニ出デテ、三年ノ間、兵役ニ
服スベキ定メナリ。之ヲ常備役ト云フ。此外、豫備役、後備役、國民兵
ニ分チ、天皇陛下、親ラ之ヲ統ベサセ給フ所ナリ。此ノ兵ハ、國ヲ
守ルニ、一日モ缺クベカラサルモノニテ、若シ、國ニ兵備ナキ時ハ、
内亂ヲ鎮メ、外寇ヲ禦ギ、進ミテ國威ヲ輝スコト能ハザルナリ。故

ニ男兒ハ、奮テ兵役ニ服スベキナリ。

右の文を、適宜に二分したるものを、前後して、一文となさい。
國ヲ守ルニ、一日モ缺クベカラザルハ、兵備ナリ。若シ、兵備
ナキ時ハ、内亂ヲ鎮メ、外寇ヲ禦ギ、進ミテ、國威ヲ輝スコト
能ハザルベシ。故ニ我國ノ男子ハ、滿二十歳ニ至レバ、兵士
ニ出デテ、三年ノ間、兵役ニ服スベキ定メトナレリ。之ヲ常
備役ト云フ。此外、豫備役、後備役、國民兵ニ分チ、天皇陛下
親ラ之ヲ統ベサセ給フ。

(二) 租 税

(1) 政府は、人民の安寧幸福をはかる爲に、役所を設け、吏員を置く
こと。

(2) 役所及び吏員に要する費用は、人民より徴收すること。

(3) 租税に、國稅府縣稅、市町村稅あること。

(4) 各税は、如何に費すか。

右のことがらを、つゞけて、一文となさい。

政府は、人民の安寧幸福をはかる爲に、種々の役所を設け、
多くの吏員を置かざるべからず。此費用は、皆人民に割り
當て、之を徴收するなり。之を租税といふ。租税には、種々
あれども、大別して、國稅府縣稅、市町村稅の三種とす。國稅
は、全國の政務に充つる費用にして、府縣、市町村稅も、亦、各
其部分の政務に充つる費用なり。

(類題) 國民の義務

(三) 税金の納入を依頼する文

其後は、御無沙汰を致しまして、申譯がありません。今度、私から、役

場へ納める地方税、村税第一期分、明日限り持ち参る筈であります。すが、兩三日前から、風邪で、休んで居まして、明日、とても役場へ行けませぬから、誠に申兼ますけれども、此徴税令書に記してある金額、御手許へ差上げ置ますから、明日、役場へ御出のせつ、御持ち下され、収入役へ納め下さるよし、お頼み申します。

右の話の文を、手紙の文に、改めなさい。

拜啓其後は御無沙汰仕居申譯之れなく候。偕私より納入致すべき地方税、村税第一期分、明日限り役場へ持参仕るべき筈の處、兩三日前より風邪にて打臥し居、明日は迎も出頭致し難く候。誠に申兼候へども、別紙徴税令書記載の金額、御手許へ差上げ置き候間、明日御出頭の折、御携へ下れ、収入役へ納入の程、御依頼申上げ候草々。

(四) 朝鮮

朝鮮は、黄海と、日本海との間に、突出したる半島國なり。國號を、韓と稱す。古より、我國と、交通盛にして、兩國の關係深し。此國近くまで、支那の屬國の姿なりし。我國にて、助けて、獨立國と爲さしめたり。首府を京城といふ。仁川、釜山、元山、津は、此國の良港なり。我邦人の、居留するもの多し。

右の字句を、適宜につけて、普通文となさい。

朝鮮は、黄海と、日本海との間に、突出したる半島國にして、國號を韓と稱し、古より、我國と、交通盛にして、兩國の關係深し。此國、近くまで、支那の屬國の姿なりしを、我國助けて、獨立國と爲さしめたり。首府を京城といふ。仁川、釜山、元山、津は、此國の良港にして、我邦人の、居留する者多し。

(類題) 朝鮮の略史

(五) 支那

- (1) 支那帝國の面積を、我國と比較せよ。
- (2) 其人口の比較は如何。
- (3) 首府の名稱、景況を問ふ。
- (4) 首府に次ぐ都會、二三を挙げよ。
- (5) 地味、及び河流の大なるものを問ふ。
- (6) 物産の重なるものは何か。
- (7) 國人の氣風は如何。

右の問ひの答をつづけて、一文となさい。

支那は、東洋の一大帝國にして、其面積、我に三十倍し、人口は十倍せり。北京は、此國の首府にして、市街繁盛なり。南京

上海・天津等は、之に次ぎて盛なり。此國、西北部は、土地開けざれども、東南部は、黃河・楊子江等縱横に貫流して、沃野連り、米・茶・綿等を産すること多し。此國人、勤儉にして、能く方役に堪ふることは、他國人の及ばざる所なり。

(類題) 支那の略史

(六) 義勇

一旦事アル●●ハ、身ヲ挺シテ、○ニアタル勇氣ヲ稱シテ、○○トイフ。國民ニシテ、此○●●モノ多キトキハ、○○ノ辱ヲ受クルコト●●。勅語ニ「一旦○○アラバ、義勇○ニ奉ジ」トアリ、吾等ハ、常ニ此ヲ守リテ、○○ニ備フル覺悟●●肝要ナレ。

右の○へ漢字を、●へ假名字を入れなさい。

一旦事アルトキハ、身ヲ挺シテ、事ニアタル勇氣ヲ稱シテ、

義勇トイフ。國民ニシテ、此心アルモノ多キトキハ、外國ノ辱ヲ受クルコトナシ。勅語ニ「一旦緩急アラバ、義勇公ニ奉ジ」トアリ。吾等ハ、常ニ此ヲ守リテ、萬一ニ備フル覺悟コソ肝要ナレ。

(七) 織田信長

織田信長ハ、尾張ノ人ナリ。年壯ニシテ、天下ヲ平定センノ志ヲ起シ、先ヅ尾張全國ヲ從ヘ、間モナク、今川義元ヲ桶狭間ニ破リテ、其首ヲ斬リ、尋デ齋藤氏ヲ滅シ、進ミテ近畿ヲ鎮メ、終ニ京都ニ入りテ、將軍足利義昭ヲ護リ、殊ニ御所ヲ改メ築キ、供御ノ料ヲ増シテ、朝廷ヲ尊ビ奉レリ。

右の文を、成るべく短く、つめなさい。

織田信長ハ、尾張ノ人ナリ。年壯ニシテ、尾張全國ヲ從ヘ、間

モナク、今川義元、齋藤龍興等ヲ滅シ、京都ニ入りテ、足利義昭ヲ護リ、殊ニ御所ヲ改築シ、供御ヲ増シテ、朝廷ヲ尊ビ奉レリ。

(八) 豊臣秀吉

豊臣秀吉ハ、織田信長ニ用ヒラレ、一方ノ將トナリテ、戦功ヲ立テ、又、主君ヲ弑セシ、明智光秀ヲ誅シテ、勢益盛ニナリ、遂ニ關白トナリ、兵ヲ朝鮮ニ出シテ、事半バニテ、薨ゼリ。

右の文中へ、左の事を加へて、長く、のばしなさい。

- (1) 信長ニ仕ヘ、始メハ、草履取ナリシコト。
- (2) 清洲ノ城普請ヨリ、信長ニ、大ニ用ヒラレシコト。
- (3) 天下ヲ一統セシコト。

豊臣秀吉ハ、織田信長ニ仕ヘテ、草履取ナリシニ、清洲ノ城

普請ヨリ、大ニ用ヒラレテ、一方ノ將トナリ、戰功ヲ立ツル
コト多シ。信長、明智光秀ニ弑セラレシ時、秀吉ハ直チニ、光
秀ヲ誅シタレバ、勢益盛ニナリ、終ニ天下ヲ一統シテ、關白
トナリ、志ヲ海外ニ伸ベントシテ、兵ヲ朝鮮ニ出シ、ガ事
半バニシテ、病ミテ薨ゼリ。

(類題) 豊臣秀吉朝鮮征伐

六月

(一) 快氣披露の文

御蔭を以て、快愈、藥用、滋養物、健康、回復、退院、參堂、
取敢ず、披露

右の文字を用ひ、左のことからを加へたる、手紙の文をつゞ
りなさい。

- (1) 病中、度々、見舞下されしこと。
- (2) 昨今、全く快愈せしこと。
- (3) 藥用を廢し、滋養物を用ふること。
- (4) 昨日、退院せしこと。
- (5) 近日、御禮に、出向くこと。
- (6) 取敢ず、書中にて、披露すること。

謹啓病中は度々御見舞下され有り難く存じ奉り候御蔭
を以て昨今全く快愈仕今後は藥用を廢し専ら滋養物を
用ひて健康を回復すべしと醫師より申され候につき昨
日退院仕り候間先づ御安心下されたく何れ近日參
堂萬々御禮申上ぐべく候へども取敢ず快愈御披露まで
斯の如くに御座候頓首

(二) 死去の廣告文

- (1) 死去の理由。
- (2) 死去の時日。
- (3) 出棺の時日。
- (4) 葬式の場所。
- (5) 香花等の贈與を、斷ること。
- (6) 親戚連名のこと。

右のことおらを以て、新聞紙へ、廣告する文となさい。

祖父誰儀永々病氣ノ處養生相叶ハズ昨何日午後前何時死去致シ候間此段生前辱知諸君ニ謹告仕候

追テ明何日午後前何時何町自宅出棺何所寺ニ於テ佛葬式相營ミ申スベク贈花放鳥等ノ儀ハ遺言モ之レアリ堅ク御斷リ申上ゲ候

年 月 日

孫 何 某
親戚 何 某

(三) 水

水ハ、水素一容ト、酸素二容ニテ、成シタルモノニシテ、泉トナツテハ、人ニ清キ飲料ヲ供シ、雨トナツテハ、草木ヲ生育セシメ、海トナツテハ、人類ヲ住マシムル等、萬物ヲ益スルコト、大ナリト云フベカラズ。サレバ、一旦、供水トナリテ、汜濫スル時ハ、人畜ヲ倒シ、家ヲ害スルコト甚シ。是ニ由テ見レバ、一利一害ハ、止ムヲ得ザルコトナリ。

右の文中、誤りの箇所を見出して、改めなさい。

水ハ、水素二容ト、酸素一容トニテ、成リタルモノニシテ、泉トナツテハ、人ニ清キ飲料ヲ供シ、雨トナツテハ、草木ヲ生育セシメ、海トナツテハ、魚類ヲ住マシムル等、萬物ヲ益スルコト、大ナリト云フベシ。サレドモ、一旦洪水トナリテ、汜濫スル時ハ、家ヲ倒シ、人畜ヲ害スルコト甚シ。是ニ由テ見

レバ、一利一害ハ、止ムヲ得ザルコトナリ。

二十四

(四) 空 氣

空氣ハ、地球ヲ包メル、○體ニシテ、地上如何●●處ニモ、存セ●●コトナシ。此モノ、○素ト○素ト混合シテ、○●人ヲ初メ、生物ノ生活●●コトヲ得ル●●○ナ呼吸スルガ○ニシテ、○シ、空氣ナカリセバ、一日モ其生命ヲ、○●コト能ハズ。

右の○へ漢字を、●へ假名字を入れなさい。

空氣ハ、地球ヲ包メル、氣體ニシテ、地上如何ナル處ニモ、存セザルコトナシ。此モノ、窒素ト酸素ト混合シテ成ル。人ヲ初メ、生物ノ生活スルコトヲ得ルハ、空氣ヲ呼吸スルガ故ニシテ、若シ、空氣ナカリセバ、一日モ、其生命ヲ保ツコト能ハズ。

(類題) 風

(五) 晴雨計

晴雨計の理は、トリセリー氏の發明したるものにて、一氣壓の力が、水銀柱を支ふるに、幾何の高さなるかを、精密に測るときは、二尺五寸零八厘となり、之を米突尺に換算する時は、七百六十耗ミットとなる。然るに、氣壓は、時々増減の起るものにて、例へば、俄に熱の爲めに、空氣膨脹し、稀薄となり、氣壓を減することあり。或は、これと反對に、他の原因にて、氣壓増進するなど、種々ありて、其都度管中の水銀柱を高低するなり。此理に基き、晴雨計の水銀上るは、晴天にして、下るは、雨天なり。又急に下るは、暴風雨などの兆なることを、知るなり。

右の文を、出来るだけ、短くつめなさい。

晴雨計は、トリセリー氏の發明したるものにして、一氣壓に對する、水銀柱の高さを精密に測りて、二尺五寸八厘、即ち七百六十耗とす。然るに、氣壓は種々の原因の爲めに増減するものにて、其度に、管中の水銀柱を、高低するなり。其上るは、晴天にして、下るは、雨天なり。又急に下るは、暴風雨の兆とせり。

(六) 寒暖計

寒暖計は、下部の球形をなせる硝子の細き管に、水銀を入れたるものにして、側に、度数を盛りたる器なり。之には、華氏・攝氏・列氏の三種あり。其中、廣く用ひらるゝは、華氏の寒暖計なり。

右の文中へ、左のこととがらを加へて、一文となさい。

(1) 寒暖を知る理

(2) 三氏の分度法、及び、其用ひらるゝ模様。

寒暖計は、下部の球形をなせる硝子の細き管に、水銀を入れ、熱の多少によりて、水銀膨縮し、管中を昇降するにより、側に度数を盛りて、寒暖を知る器なり。之には、華氏・攝氏・列氏の三種あり。華氏は、氷点を三十二度とし、沸点を二百十二度とし、攝氏は、氷点零度、沸点百度、列氏は、氷点零度、沸点を八十度とす。其中、攝氏は、學術に用ひられ、華氏は、一般に廣く用ひらる。

(七) 梅雨中友に贈る文

梅雨日々鬱陶しく、如何起居なされ候か、外出にものうく、垂れ籠め居り候、吉備團子と稱し、岡山名産のよし、風味の程、雨中の御鬱散にもと。

右の句を用ひて、手紙の文をつゞりなさい。

梅雨日々鬱陶しく候處如何御起居成され候か一度御様子御伺ひに罷出申すべきの處とかく外出にもものうく垂れ籠め居り失禮仕候此品は備前の友人より贈り越し候ものにて吉備團子と稱し岡山名産のよし風味の程は如何かと存候へども御茶菓子として雨中の御鬱散にも相成候はんかと態と御目にかけて候頓首

（類題）梅雨中見舞に答ふる文

（ハ）徳川家康

徳川家康は、三河の人でありまして、織田信長に従ひて、戦亂を平けることを助けましたから、領分が、たんに廣くなりまして、東海道第一の大名となりました。豊臣秀吉が、織田氏に代りまして

からは、關東八州を領して、勢が、ぬけて、外の大將は、とても及ばなくなりました。秀吉薨じて後、石田三成等が、兵を大阪に挙げましたを、關原で、之を撃ち破りて、遂に天下の政を、握るよゝに、なりました。

右の話を、普通文に改めなさい。

徳川家康は、三河の人なり。織田信長に従ひて、覇業を助けければ、領地次第に廣まりて、東海道第一の大名となれり。豊臣秀吉、織田氏に代るに及び、關東八州を領して、權勢遠く諸將の上に出づ。秀吉薨じて後、石田三成等、兵を大阪に挙げしを、關原の一戦に、之を撃破して、遂に、政權を握るに至れり。

七月

(一) 日光

日光は、下野國にありて、徳川家康及び三代將軍家光の廟あり。其建築宏壯にして、彫刻精巧を極めたり。中にも、陽明門は、梁柱に花鳥を刻み、簷には、黄金の鈴を懸け、天井には、狩野守信の龍を畫き、見るものをして、日の暮るゝを忘れしむ。由て、日暮門とも稱す。其他、社殿堂宇、結構の壯麗、裝飾の華美なるに至りては、一々筆すべからず。

右の文を、適宜に分けて、陽明門と、其他の社殿との事を記せる、二文となさむ。

日光は、下野にあり。徳川家康及び三代將軍家光の廟あり。其社殿堂宇、結構壯麗にして、彫刻精巧を極め、一々筆すべからざるなり。

陽明門は、梁柱に花鳥を刻み、簷には、黄金の鈴を懸け、天井には、狩野守信の龍を畫き、見るものをして、日の暮るゝを忘れしむ。由て、日暮門とも稱す。

(二) 立志

- (1) 志を立てぬものは、ちよーと、船の楫がないよーである。
- (2) 楫がなければ、船を目當の所に、行ることが出来ぬ。
- (3) 志が立たねば、立身出世することが出来ぬ。
- (4) しつかりした志を立てよ。
- (5) 仕事を撰みて、仕遂けることを、心できめねば、ならぬ。
- (6) 昔の人も、「志を立つること猛なるべし」と言つた。
- (7) 精出さなければ、ならぬ。

右の話し言葉を、文章の言葉に改め、そして、皆を、つゞけて、一

文となさい。

人トシテ志ヲ立テザルモノハ、恰モ船ノ楫ナキガ如シ。船ニシテ楫ナケレバ、目的地ニ漕ギ行クコト能ハズ。人志ヲ立テザレバ、立身出世スルコト能ハザルナリ。サレバ、人ハ初メヨリ、確トシタル志ヲ立テ、其業ヲ撰ビテ、必ズ之ヲ遂行セシコトヲ期スベシ。古人モ、志ヲ立ツルコト猛ナルベシトイヒタレバ、吾等ハ、此言ヲ守リテ、奮勵スベキナリ。

(三) 忍耐

忍耐とは、辛抱○しと●●ことにて、重に、勤勉と相伴ふものなり。凡そ、世の○●事業は、懷手●●得らるべき●●なし、皆夜を○●繼ぎて、働き、辛苦に○●を累ねて、爲し上げたる○●なり。されば、忍耐の徳は、困難を犯すを、常●●●●ものといふべし。

右の○に漢字を、●に假名字を入れなさい。

忍耐とは辛抱強しといふことにて、重に、勤勉と相伴ふものなり。凡そ、世の中の事業は、懷手して得らるべきものなし。皆、夜を日に繼ぎて、働き、辛苦に辛苦を累ねて、爲し上げたる結果なり。されば、忍耐の徳は、困難を犯すを、常とするものといふべし。

(類題) 勤勉

(四) コロンバスの亞米利加發見

コロンバスは、伊太利の人なり。星學に通じて、航海の術に精しかりき。嘗て地球上に、未だ人の知らざる大陸のあるべきを考へ、之を發見せんと思ひ起せり。夫より、西班牙王妃の助にて、大船二艘を得、自らも、一艘を調へて、都合三艘、バロス港を出帆したるに、行

けども、際涯なき青海原なりしかば、水夫等は怖れて、歸らんことを乞ひしかど、コロンバス、之を許さずして、船を進め、遂に、亞米利加を發見して、大名を、世界に轟かせり。

右の文を、なるべく短くつゞめなさい。

コロンバス、嘗て、地球上に、未だ人の知らざる大陸のあるべきを考へ起し、西班牙王妃の助にて、船を得、西に向て出帆し、一方ならぬ辛苦を経て、遂に、亞米利加を發見して、大名を世界に轟かせり。

(五) 熱ノ作用

凡ソ、生物ノ繁榮モ、四季ノ運行モ、製造工業モ、皆熱ノ作用ニヨルモノナシ。熱ハ、一種ノ震動ニテ、物體ニ於ケル熱ノ變化ハ、分子ガ震動セシムルト云フ。總テ物體ハ、熱セザル時ハ、膨脹スルモノナリ。

テ、其力ハ、非常ニ強キモノナリ。蒸氣機關ヲ運動スル力ハ、實ニ熱ニヨリテ生ゼシ、厭縮セル水蒸氣ノ、膨脹ニヨルモノナリ。

右の文中、誤ある所を、見出して、改めなさい。

凡ソ、生物ノ繁榮モ、四季ノ運行モ、製造工業モ、皆熱ノ作用ニヨラザルモノナシ。熱ハ、一種ノ震動ニテ、物體ニ於ケル熱ノ變化ハ、分子ノ震動ナリト云フ。總テ、物體ハ、熱セラル、時ハ、膨脹スルモノニシテ、其力ハ、非常ニ強キモノナリ。蒸氣機關ヲ運轉スル力ハ、實ニ熱ニヨリテ生ゼシ、壓縮セル水蒸氣ノ膨脹ニヨルモノナリ。

(類題) 蒸氣ノ作用

(六) 寫眞を贈る文

(1) 支那朝鮮へ漫遊として出發せし、友人某は、寫眞術の嗜好あり

しこと。

(2) 到る處、有名なる風景、建築等を寫し取り、其種板を贈り越せしこと。

(3) 寫眞師に依頼して、焼付け、仕上げを爲さしめしこと。

(4) 地理・歴史の、參考となること。

(5) 二組進上すること。

右のことがらによりて、手紙の文を、つゞりなさい。

拜啓先日朝鮮支那内地漫遊として出發仕候友人某氏義豫て御承知の通り寫眞術の嗜好も之れあり到る處有名なる建築風景等寫し取り候種板贈り越し候につき此程寫眞師に依頼して焼付け仕上げを致させ候右は何れも地理・歴史上有用の參考品と存じ一組進上仕候間御覽下

されたく候

(七) 虎

亞細亞大陸に産す、猛獸、體の高さ三尺、長さ六七尺、容貌、黃褐色、太き黒條、性猛烈、一聲高く吼ゆ、百獸怖れ伏す、敷物、人は死して名を留め、虎は死して皮を残す、功業、貴重。

右の字句を用ひて、普通文を、つゞりなさい。

虎は、亞細亞大陸に産する猛獸にして、體の高さ三尺、長さ六七尺あり。容貌猫に似て、背は、黃褐色にして、太き黒條ありて、甚だ美なり。性猛烈にして、一聲高く吼ゆるときは、百獸怖れ伏す。皮は、敷物として、甚だ貴重す。古語に、人は死して、名を留め、虎は死して皮を残す、といへり。是れ固より、人の功業を立つべきを云ひたる語なれど、又、以て、虎皮の貴

重せらるゝ所以をも知るに足らん。

Ⅷ 獅子

多く亞非利加に産す、體の高さ三四尺、長さ六七尺、牡に鬣あり、毛は灰色、獸類の王と稱す、頗る小心なり、晝は隠れ、夜は池沼の邊に潜み、他獸の水を飲まんとするを撃ち斃し。

右の句を用ひ、前の、虎の文體にならひたる普通文をつゞりなさい。

獅子は、多く亞非利加に産する猛獸にして、體の高さ三四尺、長さ六七尺あり。毛は灰色にして、牡には鬣あり。性猛烈にして、高く吼ゆる時は、萬獸怖れ伏す。故に獸類の王と稱す。然れども、また頗る小心なり。晝は隠れ、夜は池沼の邊に潜み、他の獸類の水を飲まんとするを撃ち斃して、食ふと

云ふ。

八、九月

(一) 西比利亞

- (1) 西比利亞の位置と、所轄とを問ふ。
- (2) 西比利亞の氣候、殊に、冬季の模様は、如何。
- (3) 西比利亞の天產物中、重なるものを、挙げよ。
- (4) 浦鹽斯德港の、狀況を、述べよ。
- (5) 西比利亞鐵道の、起點と終點とを言へ。

右の問ひに答へ、それをよくつゞけて、普通文となさい。
我國の北海を隔てゝ、廣き國土あり。之を西比利亞といふ。悉く露領たり。氣候嚴寒にして、冬は堆雪山をなせり。土人は、橇を馴鹿に牽かせて、雪中之に乗る。此地、天產に富みて

動物には、白熊・馴鹿・礦物には、白金・金・銀・銅・鐵等あり。浦鹽斯德は、日本海に頻する港にして、貿易盛なり。西比利亞鐵道は、此處より起りて、露都に達せり。

(類題) 亞細亞洲

(二) 南洋諸島

南洋諸島は、我國の南の、遠い太平洋の中に、散れてある多くの島々を、云ふのでありまして、其主なるものは、布哇・サモア・新西蘭・濠太刺利亞・タスマニアなどであります。布哇は、我國の人が、大勢居留して居ます所で、濠太刺利亞は、獸を畜ふことが盛で、羊の毛の、大市場が多く、又、黄金も澤山出ます。

右の話を、普通文となさい。

南洋諸島とは、我國の南方、遠く太平洋中に、散在する、大小

の島嶼を云ふ。其主なるものは、布哇・サモア・新西蘭・濠太刺利亞・タスマニア等なり。布哇は、我國人多く居留す。濠太刺利亞は、牧畜の業、殊に盛にして、羊毛の大市場多く、又黄金の産出多し。

(三) 歸宅を問合する文

- (1) 留守中の商家の主人へ、急に面會の要件あり。
- (2) 留守居の人は、主人の歸宅期日を知るならん。
- (3) 其家は、數里を隔て居れり。
- (4) 故に、書狀にて、留守居の人へ、歸宅の期日判明し居れば、折返して、返事あれと、申送ること。

右によりて、手紙の文をつゞりなさい。

拜啓御主人御事此程商用にて遠方へ御出張に相成候由

右御旅行は凡幾日間の御豫定に候か、實は大至急面談仕
たき要件相生し當惑致居候間御歸宅の時日御留守宅に
通知にても之れあり候は、御手数ながら折返し御知ら
せ下されたく待上げ候頓首

右の手紙を、一音信の電信文となさい。

レユジ ニニスキフメンカイシタ

レイツカヘルカヘンジ マツ（署號）

右を、一音信の電信文となさい。

レユジ ニイツカヘルヘンマツ

（四）釋迦

佛教、釋迦、二千七百年前、印度、聰明、徳を修め、衆を濟
ふ、バラモン教の名僧、雪山、默想、大に悟る、一切平等、

傳來。

右の字句を用ひて普通文をつゞりなさい。

我國に廣く行はるゝ佛教を唱へたる釋迦は、今より、二千
七百年前に、印度に生れたり。性聰明にして、常に、徳を修め、
衆を濟ふ法を立てんと志し、初め、バラモン教の名僧に就
きて、道を學びしが、其益なきを悟り、雪山にこもりて、默想
すること十餘年、大に悟る所ありて、山を下り、夫より一切
平等の説を立て、人を説きしかば、其教を奉ずる者多く、終
に我國にも、欽明天皇の御代に、初めて傳來せり。

（五）孔子

（1）孔子ハ、今ヨリ二千餘年前、支那ノ魯ニ生ル。

（2）幼キ時ヨリ、行正シク、自ラ、禮儀作法ニカナヘリ。

(3) 魯ノ執政トナリテ、能ク、國內ヲ治メタリ。

(4) 魯ヲ去リテ、四方ヲ遊説ス。

(5) 當時ノ人、皆、目前ノ小利ニ眩シテ、孔子ノ説ク大道ヲ聞クヲ喜バザリキ。

(6) 後年、專ラ、著述ト、教育トニ、從事シケルニ、弟子三千餘人ニ及ビタリ。

右のことがらを、つゞけて、一文となさす。

孔子ハ、今ヨリ二千餘年前、支那ノ魯ニ生レタリ。幼キ時ヨリ、其行正シク、自ラ、禮儀作法ニカナヘリ。後、魯ノ執政トナリテ、能ク、國內ヲ治メタリ。孔子、魯ヲ去リテ、四方ヲ遊説シタルドモ、人、皆、目前ノ小利ニ眩シテ、大道ヲ聞クヲ喜バザリケレバ、我道ヲ施スニ由ナク、國ニ歸リテ、專ラ著述ト、教

育トニ從事シケルニ、弟子三千餘人ニ及ビタリト云フ。

(六) 宗教

宗教は、人心を、善道に、感化することを主とする教にして、其種類も多く、其方法も多しと雖ども、之を大別して、佛教、儒教、耶蘇教とす。佛教は、釋迦の唱へしものにて、儒教は、孔子、耶蘇教は、基督の唱へしものなり。此三人を、世に三聖と尊び敬へり。

右の文を、佛教、儒教、耶蘇教、各別の、短文となさす。

佛教は、三聖の一人と、尊敬せらるゝ、釋迦の唱へしものにて、人心を、善道に、感化することを、主とする教なり。儒教は、三聖の一人と、尊敬せらるゝ、孔子の唱へしものにて、人心を、善道に、感化することを、主とする教なり。耶蘇教は、三聖の一人と、尊敬せらるゝ、基督の唱へしもの

にて、人心を善道に感化することを、主とする教なり。

(類題) 教育

(七) 平壤ノ戦

平壤ハ、朝鮮ノ北部ニアリ、大同江ヲ前ニシ、牡丹臺ヲ後ニ控ヘタル要害ノ地ナリ。清將左寶貴、二萬ノ大軍ヲ以テ、我軍ノ北進ヲ防グ。是ニ於テ、我軍ハ、部署ヲ定メ、九月十五日ヲ以テ、平壤ヲ合撃セリ。大島少將ハ、大同江ノ沿岸ニ進ミテ、先ヅ戦ヲ開キ、奮撃突進シテ、敵ノ數壘ヲ拔ク。時ニ、立見少將、佐藤大佐ハ、敵ノ背面ニ達シテ、砲撃スル中、一隊ハ突進シテ、牡丹臺ヲ突撃セシニ、敵兵支フルコト能ハズ、逃ゲ迷ヒシヲ、我軍、勢ニ乗ジテ、前後ヨリ夾撃シテ、敵將左寶貴ヲ殲シ、牡丹臺下ニアル玄武門ヲ破リ、進ミテ、本城ヲ乗取レリ。コヽニ、又野津中將ハ、大同江ノ下流ヨリ進ミテ、城ヨリ逃レ

出ヅル、敵兵ヲ撃テ、其大半ヲ殺セリ。僅々二十四時間ノ戦争ニテ、カク、大勝利ヲ得シハ、稀ナルコト、イフベシ。

右の文を、出来るだけ、短くつゞめなさい。

平壤ハ、朝鮮北部ノ要害地ナリ。清軍此ニ據リテ我軍ヲ防グ。依テ、我軍、部署ヲ定メテ、之ヲ合撃ス。大島少將ハ、大同江ノ沿岸ニ進ミ、立見少將、佐藤大佐ハ、敵ノ背面ニ達シテ、戦ヲ開ケリ。一隊、牡丹臺ヲ突撃シ、此勢ニ乗ジテ、前後ヨリ夾撃シテ、敵將左寶貴ヲ殲シ、進ミテ本城ヲ乗取レリ。城ヨリ逃レ出ヅル敵兵ハ、野津中將ノ爲メニ、其大半ハ撃殺セラレ、全ク我軍ノ大勝利ニ歸セリ。

(ハ) 黄海ノ戦

平壤陷落ノ翌日、我海軍ハ、軍艦十二艘ヲ率キ、伊東海軍中將、全隊

ヲ指揮シテ、黃海ニ向ヘリ。時ニ、清國軍艦十二艘、水雷艇六艘、列ヲ正シテ、攻メ來リケレバ、茲ニ一大海戰ヲ開キ、激戰ノ後、敵艦ヲ燒キ、或ハ沈ムル等、大損害ヲ與ヘテ、全勝ヲ得タリ。

右の文へ、左の事がらを加へて、文を長くなさい。

- (1) 吉野・浪速・高千穂・秋津洲ノ四艦、先鋒タリシコト。
- (2) 松島・嚴島等ノ七艦、外ニ西京丸ヲ加ヘテ、十二艘ナリシコト。
- (3) 松島ニハ、司令長官伊東海軍中將、乘リ組ミタルコト。
- (4) 西京丸ニハ、軍令部長樺山海軍中將、乘リ込メルコト。
- (5) 清國軍艦ノ主ナルモノハ、鎮遠・定遠ナリシコト。
- (6) 敵艦ノ沈没セシハ四艘、燒カレタルハ三艘、其他ミナ、大損害ヲ受ク。

平壤陷落ノ翌日、我海軍ハ、吉野・浪速・高千穂・秋津洲ノ四艦

ヲ先鋒トシ、松島・嚴島等ノ七艦ニ、西京丸ヲ加ヘテ十二艘、松島ニハ、司令長官伊東海軍中將、乘リ組ミテ全隊ヲ指揮シ、西京丸ニハ、軍令部長樺山海軍中將、乘リ込ミテ黃海ニ向ヘリ。時ニ、清國軍艦鎮遠・定遠等十二艘、水雷艇六艘、列ヲ正シテ、攻メ來リケレバ、茲ニ一大海戰開ケ、一時ヨリ五時マデ激戰ヲ爲シ、遂ニ敵艦四艘ヲ打チ沈メ、三艘ヲ燒キ、其他ノ軍艦ニ大損害ヲ與ヘテ、追ヒ退ケ、全勝ヲ得タリ。

(類題) 海戰

(九) 質問に答へられたるを謝する文

先日、失禮ではありましたが、手紙で、厄日前後に、暴風雨の來ますわけを、御質問致しましたに、早速細かに、御説明下さいまして、お蔭で、よくわかりました。直ぐにも、御禮に出ます筈でありますが、

折悪しく風邪で、二三日前から、引き込んで居ますから、手紙で御禮を申します。いづれ、近々に、出まして、御禮を申します。

右の話を、手紙の文となさい。

一書拜呈仕候先日失禮をも顧みず書面を以て厄日前後に暴風雨の襲來致す理由御質問に及び候處早速詳細の御説明下され御蔭を以て始めて明瞭致し候段有り難く深く謝し奉り候右につき直ちに御禮に罷出申すべきの處折悪しく風邪にて兩三日前より引籠居處故取敢ず書中にて御禮申上げ候何れ近日參堂萬謝に及ぶべく候敬白

(十) 音の傳達

音ハ、物體分子ノ震動ガ、○○ニ傳ハリテ、我○ニ達スルモノナリ、

其空氣ヲ傳●●コト、恰モ水紋ノ○○、波動ヲナシテ、○○ニ擴散ス。其進行ノ速力ハ、光ニ及バザルコト○ク、一秒時間ニ、○●一千百四十五尺●達スルノミ、遙カニ煙火ヲ見テ、後、砲聲○聞キ、伐木ヲ見●○、其聲ヲ○●モ、光音傳達ニ、遲速アル一例ナリ。

右の○へ漢字を、●へ假名字を入れなさい。

音ハ、物體分子ノ震動ガ、空氣ニ傳ハリテ、我耳ニ達スルモノナリ。其空氣ヲ傳フルコト、恰モ水紋ノ如ク、波動ヲナシテ、四方ニ擴散ス。其進行ノ速力ハ、光ニ及バザルコト遠ク、一秒時間ニ、凡ソ一千百四十五尺ニ達スルノミ。遙カニ煙火ヲ見テ、後、砲聲ヲ聞キ、伐木ヲ見テ、後、其聲ヲ聞クモ、光音傳達ニ、遲速アル一例ナリ。

(類題) 光

(一) 太陽

- (1) 太陽は、常に燃えて、光熱を發散する、大球體なること。
- (2) 地球より遠き故、小さく見ゆること。
- (3) 地球の直徑は、三千二百餘里、太陽の直徑は、之に百倍すること。
- (4) 太陽ある故に、地上の萬物、生存すること。

右のことがらにより、普通文をつゞりなさい。

太陽は、常に燃えて、光と熱とを、發散する大球體なり。我地球より、距離遠ければ、小さく見ゆれど、その實は然らず、地球の直徑は、三千二百餘里なれども、太陽は、之に百倍するものなり。地球上の萬物は、皆、太陽の餘澤を受けて、生存するものにして、若し、此物なければ、吾人は、一日も生活すること能はず。

(類題) 日射

(一) 月

地球を中心とし、周邊を運行す、衛星、直徑八百八十四里、地球の五十分の一、月は光輝を發せざるもの、皎々、反射、玉兔、兔の躍る如き狀、凸凹、山岳、深谷、

右の字句、事實を用ひて、普通文をつゞりなさい。

月は、地球を中心として、其周邊を、運行する衛星なり。其直徑は、八百八十四里にして、我地球の五十分の一に過ぎず。元來月は、光輝を發せざるものなるに、其皎々たるは、太陽の光線を受けて、之を地球に、反射するに由るなり。又、月を玉兔とも稱して、其表面に、兔の躍るが如き狀あるは、其凸凹の甚しきによるものにて、此は、山岳にあらずば、深谷な

るべしといふ。

十月

(一) 國民の心得

我國は昔から皇室と國家と一體でありますから、皇室を離れましては、國家といふものはありません。西洋には、革命といふことがありて、王室が時々かはりますので、尊王と愛國と一致することとは、出来ません。これから、見ても、我國の尊いことが知れませう。それであるから、國民は、此事を心に知り別けて、家業を勵み、君の爲め、國の爲めに、盡さなければなりません。

右の話を、普通文に改めなさい。

我帝國は、昔より、皇室と國家と一體なれば、皇室を離れて、國家あることなし。然るに、西洋には、革命行はれて、時々王

室に變更あれば、尊王と愛國とは、一致すること能はず。是に由ても、我國の尊き所以を知るべし。此故に國民は、能く此理を知りて、生業を勵み、大君の爲め、又御國の爲めに盡すべきなり。

(二) 天然物の利用

凡ソ、天地間ノ萬物ハ、之ヲ用フル法、宜シキヲ得バ、人生ヲ補益セザルモノナシ。例ヘバ、動植、礦等ヨリ、電、磁氣、瓦斯ノ利用ノ如シ。此等ハ、皆多年ノ實驗ニ成リタルモノナリ。思フニ、人智益、進ミテ、利用ノ途益、開ケナバ、世界ノ文明ハ、如何ニ進歩スルカ、圖リ知ルベカラズ。

右を、話の文にかき改めなさい。

すべて、天地間の萬物は、之を使ふ方さへ、宜しいと、人の益

をしないものはない。例へて見ると、動植礦などから、電氣、磁氣瓦斯などのよいなものとあります。是は、皆永年かゝつて、實驗して、利用の途をつけたのです。此れから、考へて見ますと、人智がすゝむと、利用の途が、段々開け、終には、世界の文明が、どの位進みますか、知れません。

(三) 建武の中興

後醍醐天皇御位に即き給ふに及び、鎌倉執權北條高時の驕奢を極むることを聞き召され、陰に征伐の謀を運し給へり。然るに、事鎌倉に洩れしかば、高時大に驚き、兵を遣はして、天皇を隠岐に遷し奉れり。程なく、勤王の士四方に起り、中にも、楠正成、兒島高德、最も王事に勤めて、賊軍を破れり。天皇遙に之を聞き給ひ、潜に、隠岐を出で、伯耆の船上山に行在所を構へ給ふ。此時、新田義貞、兵を

上野に起し、急に鎌倉を襲ひ撃ちて、高時を誅したり。是に於て、天皇京都に還幸し給ひて、王政を回復し給ふ時に、建武元年なり。

右の文をつまるたけ縮めて見なさい。

後醍醐天皇、北條高時の驕奢を聞き召し、陰に、征伐の謀を運らし給ひしに、事、鎌倉に洩れければ、高時大に驚き、天皇を隠岐に遷し奉れり。程なく、勤王の士四方に起りて、賊軍を破れり。此時、新田義貞、兵を上野に起し、急に鎌倉を撃ちて、高時を誅したり。是に於て、天皇京都に還幸し給ひて、王政を回復し給へり。

(類題) 王政維新

(四) 交通貿易

國々の地質、氣候は、固より同じからず。されば、其產出製造する物

品も同じからず。是に於て、我に餘れるを彼に送り、足らざるを、彼より買ひて、相互の需要を充たすなり。是れ即ち貿易にて、之を盛大にするには、道路、橋梁、舟、車等、交通の便を良くするにあり。されば、一國を富ますさんには、交通と貿易とは、須臾も離るべからざるなり。

右を、二つの短き文に改めなさい。

國々の地質、氣候は、固より同じからず。されば、其產出製造する物品も同じからず。是に於て、我國に餘れるを、彼國に送り、足らざるを、彼國より買ひて、相互の需用を充たすことを貿易といふ。

貿易を盛にするに、最も大切なるは、道路、橋梁、舟、車等なり。此等のものにして、便ならざるときは、貿易は到底發達す

ること能はずされば、一國を富ますさんには、交通と貿易とは、須臾も離るべからざるものとせり。

(五) 汽車賃の割引を照會する文

- (1) 青年者秋季運動會を、近日催すこと。
- (2) 某驛より某驛まで、往復乗車の見込。
- (3) 乗車の人員、凡貳百名なること。
- (4) 期日、乗車時間等は、決定の上、申入るゝこと。

右のことからを、書き加へて、割引照會の手紙をつゞりなさい。

拜啓當村青年者凡貳百名近日秋季運動會を某地にて催す見込につき貴鐵道線某驛より某驛まで往復とも便乗致したく就では乗車賃金幾許の御割引成し下され候か

御内規も之れあるべく候故御手数ながら御一報下され
たく御照會に及び候也

追て期日往復乗車の時刻等は決定の上重ねて申上ぐべく候

(六) 蒸氣機關

一、蒸氣機關ノ主タルモノハ、汽筒トテ、堅固ノ圓筒ニ、鐵棒ヲ嵌
タルモノアリ。之ヲ、ピストンロッドトイフ。

二、蒸氣罐ヨリ發スル蒸氣圓筒ニ入レバ、筒内ニハ、四ツノ辨アリ
テ、互ニ開閉シ、其開閉スル毎ニ、ピストンロッドヲ一上一下スル
ナリ。此ヲ運動セシムベキ機械ニ連絡スレバ、種々ノ運動ヲ起
ス。汽車モ、汽船モ、此ガ爲メニ運轉スルナリ。

右の二文をつゞけて、一文としなさい。

蒸氣機關ノ主タルモノハ、汽筒トテ、堅固ノ圓筒ニ、鐵棒ヲ

嵌メタルモノナリ。之ヲピストンロッドトイフ。サテ、蒸氣罐
ヨリ發スル蒸氣圓筒ニ入レバ、筒内ニハ、四ノ辨アリテ、互
ニ開閉シ、其開閉スル毎ニ、ピストンロッドヲ一上一下スル
ナリ。此ヲ運動セシムベキ機械ニ連絡スレバ、種々ノ運動
ヲ起ス。汽車モ、汽船モ、此ガ爲メニ運轉スルナリ。

(類題) 蒸氣機關ノ發明

(七) 火 藥

一、火藥を發明したるは、何人にや。

一、如何なる場合に發明したるか。

一、火藥は、如何なるものゝ合成にや。

右の問にこたへて、それを一文につゞきなさい。

日耳曼の僧シワルツといふ者、土を化して、黄金となさん

とし或日硫黄と木炭と硝石とを臼にて碎き之を混和して其上に石を載せ夕方に至り其結果を見んとし燈火を點ぜんとしたるに其火光臼の中に飛び入り爆然一發石を跳ね飛ばしたり是に於て僧は此混合物の爆發性あるを知り工夫を凝して遂に今日用ふるが如き火薬を製するに至れり。

Ⅱ 神戸より上海の航路

神戸を出帆して○○○○に入れば島嶼點々風景畫の如き中を徐行して○○に出で石炭を積み○○に著し夫より東海を航すること二晝夜にして楊子江の河口に達す見渡す限り漫々たる濁流にして河幅の廣きこと海の如し此處より吳松江を溯りて支那第一の貿易場たる○○に到る。

右の○の處に地名を入れて見なさい。

神戸を出帆して瀬戸内海に入れば島嶼點々風景畫の如き中を徐行して門司に出で石炭を積み長崎に著し夫より東海を航すること二晝夜にして楊子江の河口に達す見渡す限り漫々たる濁流にして河幅の廣きこと海の如し此處より吳松江を溯りて支那第一の貿易場たる上海に到る。

(類題) 清國長江の航路

十一月

Ⅰ 潮流

海洋中ニハ潮流トテ一定ノ方向ニ流ル、水アリ此ハ太陽ノ熱ニ源因スルモノニシテ我國ノ近傍ニテハ暖流一ニ黒潮ト稱ス

ルモノ、臺灣近海ヨリ來タリ、琉球諸島ヨリ、九州、四國、并ニ本州ノ沿岸ヲ洗フ。又寒流一ニ親潮トモイフ。北ノ方、オコツク海ノ東北隅ニ發シ、千島諸島ノ東邊ヲ流レテ、陸中ノ東岸ニ到ルモノアリ。

右の文中に、潮流の效用を加へて、一文としなさい。

海洋中ニハ、潮流トテ、一定ノ方向ニ流ル、水アリ。此ハ、太陽ノ熱ニ源因スルモノニシテ、我國ノ近傍ニテハ、暖流、一ニ黒潮ト稱スルモノ、臺灣近海ヨリ來タリ、琉球諸島ヨリ、九州、四國、并ニ本州ノ沿岸ヲ洗フ。寒流、一ニ親潮トモイフ。北ノ方、オコツク海ノ東北隅ニ發シ、千島諸島ノ東邊ヲ流レテ、陸中ノ東岸ニ到ル。潮流ハ、水族ヲ誘ヒ來タリ、氣候ヲ和ゲ、航海ヲ便ニスル等、其用甚ダ多シ。

(二) 條約國

一、我國昔、外國と交際せし國々は、どこそありましたか。

二、條約を結びて、交際をしましたのは、どの國が、一番さきで、それは、今から、何年ばかり前ですか。

三、現今の條約國は、どこどこでありますか。

右の問にこたへて、一文をつゞりなさい。

我國は、昔、清、韓、和蘭の三國と交通せしのみなりしが、今より五十年前、北米合衆國と、假條約書を結びて、交通貿易を許し、より尋て、英、佛、露等の諸國にも通商を許したりしが、現今は、以上諸國の外、暹羅、獨逸、西班牙、葡萄牙、瑞西、白耳義、伊太利、丁抹瑞典、諸威、奧地利、匈牙利、希臘、墨西哥、秘露、伯刺西爾、コンゴ、自由國等ありて、何れも、親密の交際を爲せり。

(三) 紅葉

秋ノ末ニナリマシテ、霜ガ降リカ、リマス。ト、櫨、槭ナドハ、一面ニマツカニナリマシテ、ケヨード、錦ナカケタヨードアリマシテ、景色ノヨイコトガ、春ノ花ニモ、マケナイ位デアリマス。古人ガ、紅葉ハ、二月ノ花ヨリモ紅ナリト申シマシタガ、成程、ソノ通りデアリマス。我國デ、紅葉ノ名所ハ、京都ノ高雄、攝津ノ箕面ナドデ、東京附近デハ、王子ノ瀧ノ川デアリマス。

右を、普通文にあらためて見なさい。

秋深クシテ、霜降レバ、櫨、槭等ハ、一面ニ紅葉シテ、錦ヲ懸ケタルガ如ク、其風景ノ佳ナルコト、春花ニモ劣ラズ。古人ノ、紅葉ハ、二月ノ花ヨリモ紅ナリト云ヒシハ、實ニ至言ト謂フベシ。我國ニテ、紅葉ノ名所ハ、京都ノ高雄、攝津ノ箕面ニ

シテ東京附近ニテハ、王子ノ瀧ノ川ヲ推ス。

(類題) 秋草

(四) 看楓に誘ふ文

某山の紅葉今將に見頃の由就ては明日の休暇を幸に遊覽仕たく同志五人草鞋腰辨當にて午前八時出發の約束に候御同行如何に候か同上け候草々

右の意味を失はず、長くのばしなさい。

秋深く相成、某山の楓葉今將さに錦を染め出し眞紅淡黄と相映し、兩三日が見頃に御座候由就ては明日の休暇を幸に遊覽に赴きたく存し候につき御同遊御勸め申上げ候同行五人何れも草鞋握飯にて午前八時出發の約束に御座候御同意に候はゞ御道順に候故右時刻前に拙宅へ

御立寄下されたく候草々

(五) 稻刈

寒暑宜シキヲ得●風雨時ニ順ヒ●到ル處●豊作ノ聲●穂ノ撓ムマデ●田面●數多ノ農夫●鎌ヲ以テ●刈リ取レリ●乾カシ●扱キ●磨リテ粃ヲ去リ●舂キテ精ゲ●飯ニ炊グ●農夫ノ苦勞多キコト●己ノ業ヲ勵ムベキナリ

右の字句に、適宜の文を加へて、一の普通文をつゞりなさい。

今年ハ、風雨時ニ順ヒ、寒暑宜シキヲ得、稻ハ、穂ノ撓ムマデ實リ、到ル處ニ豊作ノ聲ヲ聞カザルナシ。田面ニハ、數多ノ農夫鎌ヲ以テ喜バンゲニ、稻ヲ刈リ取レリ。斯ク刈リタル稻ハ、之ヲ乾シ、之ヲ扱キ、磨リテ粃ヲ去リ、舂キテ精ゲ、夫ヨリ飯ニ炊グナリ。吾等ハ、種時ニツケ、稻刈ニツケ、農夫ノ苦

勞多キコトヲ思ヒテ、己ノ學業ヲ勵ムベキナリ。

(類題) 秋の實り

(六) 新嘗祭

新嘗祭ハ、毎年——宮中ニ於テ——ニテ、今年實リタル稻ノ初穂ヲ、——御親ヲ諸神ニ捧ゲ、又、御親ヲモ、聞シ食サル、御儀式ナリ。——ハ、古ヨリ——ヲ重ンジタレバ、朝廷ニテモ、斯クハ、此御祭ヲ行ハセラル、ナリトゾ。

右の——の處に、字句を入れて見なさい。

新嘗祭ハ、毎年十一月二十三日、宮中ニ於テ行ハセラル、御祭ニテ、今年實リタル稻ノ初穂ヲ、天皇陛下御親ヲ、諸神ニ捧ゲ、又御親ヲモ、聞シ食サル、御儀式ナリ。我國ハ、古ヨリ農業ヲ重ンジタレバ、朝廷ニテモ、斯クハ、此御祭ヲ行ハ

セラル、ナリトゾ。

(七) 徳川光圀

徳川光圀は、水戸の藩主なり。幼より暗愚にして、學を好み。長じて、家を繼ぐに及び、學者を集めて、大日本史を編み、大義名分を明にせり。又南朝の忠臣楠正成の戦死せし跡の不明なるを艱き碑を湊川に立て、自ら、嗚呼忠臣楠氏之墓と記せり。後世、勤王の士世に出でしは、遠く光圀の功に基けば、明治に至り、朝廷、其功を進賞して、從二位を贈れり。

右の文中にて、誤の句、又は字を正しなさい。

徳川光圀は、水戸の藩主なり。幼より聰明にして、學を好み、長じて、家を繼ぐに及び、學者を集めて、大日本史を編み、大義名分を明にせり。又南朝の忠臣楠正成の戦死せし跡

の不明なるを嘆き、碑を湊川に立て、自ら、嗚呼忠臣楠子之墓と記せり。後世、勤王の士世に出でしは、遠く光圀の功に基けば、明治に至り、朝廷、其功を進賞して、從二位を贈られたり。

(八) 新井白石

新井白石は、江戸の人で、木下順庵に學びました。●白石は、見識が大そく高く、世の中を、をさめよーといふ量見がありました。●白石は、早くから、家宣に仕へましたが、家宣が將軍となるに及び、引き上げられて、幕政の相談にあづかりました。●白石建議をしまして、朝鮮の使者を待遇することの禮に過ぎたのを改め、又悪しき貨幣を改めて、物價のあがるを止めました。●白石は、著書が、たくさんありまして、其數凡そ三百餘もありました。

右を適當にむすびつけて、一の普通文としなさい。

新井白石は、江戸の人なり。木下順庵に學び、見識甚だ高く、經世の才あり。早くより、徳川家宣に仕へたり。家宣、將軍となるに及び、舉げられて、幕政に與り、建議して、朝鮮の使者の待遇、禮に過ぐるを改め、又惡貨幣を改鑄して、物價の騰貴を防ぎたり。白石、著書頗る多く、其數三百餘種に及べりといふ。

十二月

(一) 美術

美術トハ、繪畫、彫刻、音樂ノ如キ妙技ヲ以テ、人ノ心目ヲ樂マセルモノヲ云フ。我邦人ハ、元來手工ニ巧ミニシテ、美術ノ思想ニ富ミタルバ、織物、陶器、漆器等ノ工藝品ヲ始メ、繪畫、彫刻、建築等精巧ナ

極メタルモノ多シ。此故ニ、外國人ハ、我邦ヲ、東洋ノ美術國ト稱セリ。

右の文を、話に改めなさい。

美術と申しますことは、繪畫、彫刻、音樂のよいもので、人の心や目を樂しませるものを云ひます。我邦人は、元から、手細工が上手で、其上、美術のかんがへがありますから、織物、陶器、漆器などから、繪畫、彫刻、建築などに、精巧のものがたくさんありますので、外國人は、我邦を、東洋の美術國といふて、ほめます。

(類題) 工藝

(二) 美術展覽會に褒賞を得たるを賀する文

- (1) 秋季美術展覽に、出品の繪畫好評なりしこと。
- (2) 宮内省の御用品となりしこと。
- (3) 銀印の賞を得られしこと。
- (4) 當村の名譽なること。
- (5) 今後も奮勵ありたきこと。

右のことからを、つゞけて、手紙の文となさい。

拜啓先般來上野公園内にて開會の秋季美術展覽會に貴兄御出品の繪畫は初日以來の好評にて既に宮内省の御用品と相成候光榮に加ふるに審査の結果優等に拔擢せられ銀印の賞を得られ候由全く平素御丹誠の功顯はれ候事にて獨り貴兄の御名譽のみならず實に當村の榮譽と悦び候尙此上とも御奮勵下され益名聲を發揚せられ

たく悦びの餘り一書を呈し祝辭申上げ候敬具

(三) 運動

時ヲ定メ・適宜・運動・美味・消化・胃中ニ停滯シ・病ノ本
 ●過激・血液ノ循環・諸種ノ害ヲ醸ス・謹ムベキコトナリ。

右の字句をつゞけて、一文をつゞりなさい。

人ハ、常ニ時ヲ定メテ、適宜ノ運動ヲ爲スベシ。然ラザレバ如何ナル美味ヲ食ストモ、消化セズシテ、胃中ニ停滯シ、終ニ、病ノ本ヲ爲スニ至ルベシ。然レドモ、マタ過激ノ運動ヲ爲ストキハ、血液ノ循環ヲ急ニシテ、諸種ノ害ヲ醸スコトアレバ、謹ムベキコトナリ。

(四) 健康

人は、體が丈夫でありませんと、どんなに、學才がありましても、其

學才を用ひることが出来ません。それであるから、ふたんから、飲食と運動とに氣をつけて、體を丈夫にすることを考へるがよいであります。

右の話の中に、左の短文を入れて、一の普通文に、改めなさい。人世の幸福には、種々あれども、無病強健にして、活潑に、事業を爲すことを得るは、幸福の大なるものといふべし。

人は、身體健康ならざれば、如何なる學才ありとも、之を施すに由なし。されば、常に、飲食と、運動とに注意して、身體の強壯を圖るべきなり。人世の幸福には、種々あれども、無病強健にして、活潑に、事業を爲すことを得るは、幸福の大なるものといふべし。

（類題）人世の幸福

（五）大陸

一、地球上の大陸は、いくつに別けますか。

一、六大陸とは、何々でありますか。

一、我國は、何洲について居ますか。

一、各大洲の中で、一番開けたのは、どの洲で、開けないのは、どれでありますか。

右の問にこたへて、一の普通文をつゞりて見なさい。

地球上の大陸は、大別して、亞細亞、歐羅巴、亞非利加、南北亞米利加、及び大洋洲の六大陸とす。此中、文物最も開けたるは、歐羅巴洲にて、次は、亞細亞洲なり。我帝國は、此洲に屬す。亞非利加洲は、野蠻人多く住み、南北亞米利加洲には、沃土多く、名高き合衆國は、北亞米利加洲にあり。大洋洲は、我國

の南方に當りて、布哇、濠太刺利亞は、此洲に屬せり。

(六) 大 洋

太平洋、大西洋、印度洋、北氷洋、南氷洋、面積、

右の文字を用ひ、尙ほ海洋の益を加へ、大陸の文の形式にまねて、一の普通文をつゞりなさい。

地球上の海洋は、大別して、太平洋、大西洋、印度洋、北氷洋、南氷洋の五大洋とす。此中最も大なるは、太平洋にして、其面積は、他の四大洋を合せたるものと同じ、次は、大西洋なり。我帝國は、東方一帯太平洋に向ふ。此等の洋中には、種々の魚類、介類、海獸等の動物より、昆布、海苔等の植物繁殖して、人生を益す。

(七) 歳暮の祝賀に答ふる文

お手紙拜見しました。仰の通り、押詰りまして、最早日數も少く、新年の用意に、忙はしくなりました。唯今は、歳暮の祝として、結構な品をお贈り下され、遠慮なしに戴きます。いづれ、後程出まして、お祝ひを申し上げます。

右の話を、手紙の文となさい。

御書面忝く拜見仕候仰の如く、一日と押詰り最早餘日も之れなく、舊を送り新を迎ふる用意にて、何となく忙しく相成申し候。唯今は、歳暮の御嘉義として、結構なる品御惠贈成下され、遠慮なく頂戴仕置き候。何れ後刻參堂の上御祝詞申上ぐべく、先は御答まで敬白。

(八) 光陰矢ノ如シ

一月ヲ迎ヘシハ、——ト思ヒシニ、今ハ——トナリ。本年モ、將ニ

暮レントス。實ニ、光陰ハ——モ早く、一タビ去テ、復タ還リ來タ
ヲズ。此故ニ古人ハ、歲月人ヲ待タズトイフテ、衆人ヲ戒メタリ。之
ヲ思フ時ハ、吾等少年ハ——學業ヲ勤メ、一寸ノ光陰タリトモ、
——過ゴスコトナカルベシ。

右の——の間に、適當の文字を入れて、見なさい。

一月ヲ迎ヘシハ、昨日今日ト思ヒシニ、今ハ、十二月トナリ。
本年モ將ニ暮レントス。實ニ光陰ハ、矢ヨリモ早く、一タビ
去テ、復タ歸リ來タラズ。此故ニ、古人ハ、歲月人ヲ待タズト
イフテ、衆人ヲ戒メタリ。之ヲ思フ時ハ、吾等少年ハ、油斷ナ
ク、學業ヲ勤メ、一寸ノ光陰タリトモ、徒ニ過ゴスコトナカ
ルベシ。

《類題》 年ノ暮

一月

(一) 國旗

東天、旭の光、世界に輝き、仰ぎ見ざるものなし。我國旗、
麗しく、勇ましきこと、萬國に其比を見ず、常には、業を勤め、
學を勵み、一旦緩急あらば、義勇公に奉じ。

右の字句の間に、適當の文字を入れて、一の普通文としなさい。

東天に登る旭の光は、隈なく世界に輝きて、何人も、仰ぎ見
ざるものなし。我國旗は、此旭の登る様を寫したるにて、其
麗しく、勇ましきこと、萬國に其比を見ず。然れば、我國民た
る者は、常には、學を勵み、業を勤め、一旦緩急あらば、義勇公
に奉じ、以て、國旗の光を、旭の如くに輝かすべきなり。

(二) 四方拜

四方拜トハ、一月一日ノ朝マダキニ、天皇陛下親ラ、大庭ニ出デ、天地四方ヲ拜シ、國家ノ安寧ト、人民ノ幸福トヲ祈ル儀式ナリ。陛下ハ、カクモ、國ノ爲メニ、心ヲ掛ケラル、コトナレバ、我等臣民ハ、謹ミテ、皇室ノ繁榮ト、國家ノ隆昌トヲ祈ルベキナリ。

右の文中に、うやまひことを、入れなさい。

四方拜トハ、一月一日ノ朝マダキニ、天皇陛下御親ラ、大庭ニ出デマシテ、天地四方ヲ拜セサセ給ヒテ、國家ノ安寧ト、人民ノ幸福トヲ祈ラセ給フ御儀式ナリ。陛下ハ、カクモ、御國ノ爲メニ、大御心ヲ掛ケサセ給フコトナレバ、我等臣民ハ、謹ミテ、皇室ノ御繁榮ト、國家ノ隆昌トヲ祈リ奉ルベキナリ。

(類題) 元始祭

(三) 紡績

綿糸を製するには、これまで、一種の糸車を用ひました。●今では蒸氣機械にて、盛に精巧な糸を紡績します。●それから、段々進んで、絹糸紡績、麻糸紡績などが興りて來ました。●それだが、英國のマンチースター市などにくらべますと、また幼稚であります。●こゝばかりでも、總錘數が、四千五百萬で、職工が五十萬ありますが、我國全體で、錘數百二十萬、職工七萬ばかりであります。

右を適當につゞけて、一の普通文としなさい。

我國にて、綿糸を製するには、從來、一種の糸車を用ふるに過ぎざりしが、今は蒸氣機械を用ひて、盛に精巧なる糸を紡績するに至れり。其上、絹糸紡績、麻糸紡績等の業も、日を

追ひて興りたり。然れども、之を英國のマンチスターに比ぶるに、此市のみにて、總鍾數四千五百万本にして、職工五万あり。然るに、我全同を合せて、其鍾數僅に百二十万、職工七万に過ぎざれば、未だ、事業の幼稚を免れざるなり。

(四) 機 織

- 一、我國の織物は、大抵、高機といふ一種の器械で織ります。
- 一、絹物にて、名高いのは、京都を始め、長濱、甲府、福井、米澤、仙臺、博多等であります。
- 一、桐生、足利、八王子などでも、種々の絹織物を出します。
- 一、木綿は、河内、三河などが、最も多くあります。
- 一、木綿総は、薩摩、筑後、伊豫等が、名高くあります。
- 一、帷子地の産地は、薩摩、越後などを宜しいとします。

右を、適當につゞけ、文字を加へて、一の普通文をつゞりなす。

我國の織物は、大抵、高機といふ一種の器械にて織る。其織物には、絹、木綿、麻等ありて、諸國より産す。絹物にて有名なるは、京都を始め、長濱、甲府、福井、米澤、仙臺、博多等なり。又、桐生、足利、八王子等よりも、種々の絹布を出す。木綿は、河内、三河等最も多く、木綿総は、薩摩、筑後、伊豫等、名高し。帷子地は、^{ちまき}京麻にて、織りたるものにて、薩摩、越後の産を宜しとす。

(五) 染物注文の文

先日、お話して置きました通り、細地壹匹、よい便りがありましたゆゑ、送りましたから、女の羽織、二枚となるよし、色本第五號の、薄藤色に、お染め下さい。紋は、二枚とも、さし渡し九分の、五三の桐、三

つ紋にねがひます。遅くも、今月中に、仕揚るよ、お急ぎ下されませ。

右の話を、手紙の文と下さい。

一書呈上仕候先日御話と申上置候ひし通り今日紬色壹匹幸便にて差送り候間女羽織二枚と相成候様色本第五號の薄藤色に御染め下されたく但し紋は二枚とも直徑九分の五三の桐三つ紋に願ひ上げ候遅くも今月中に仕揚り候様御急ぎ下されたく頼み上げ候

(類題) 本箱を注文する文

(六) 紫式部

紫式部は、藤原爲時の娘であります。幼き時から、學問が、すきで、兄の傍で、本讀むを聞いて居まして、兄より先に覺えました。大きく

なりて、廣く和漢の學に通じ、和歌の道にもすぐれて居ましたが、少しも、自慢しません。其上、操の正しきことは、當時くらべるものはない。夫宣孝の死後、上東門院に仕へて、和歌を教へ申しました。曾て、源氏物語といふ本を著して、當世のみたらなことを云ひまはしました。が、文章の、面白く出來たことは、古今にもあるまいといふて、皆々感心しました。

右の話をちゞめて、一の普通文に改めなさい。

紫式部は、藤原爲時の娘なり。幼より、學を好み、兄の傍にありて、其學ぶ所を、兄より先に會得せり。長じて、廣く和漢の學に通じ、和歌の道にも秀でたり。曾て、源氏物語を著して、當世を諷したるに、其文章の妙麗なること、古今に稀れなりと人々、いひはやせり。

二月

八十八

(一) 火山

火山には、活火山とて、昔噴火して、今は活動を止めたるものと、死火山とて、現に噴火するものとあり。我國は、火山多くして、其數一千餘あり。火山の形は、大抵圓錐狀を爲し、其頂上の噴火口には、間湖水を爲すものあり。當時、活火山の有名なるは、肥後の阿蘇山、信濃の淺間山にて、飛彈の乗鞍嶽、相模の箱根山等は、死火山の著しきものなり。此外、休火山とて、時々噴火するものあり。盤梯山、富士山の如き是れなり。

右の中に、事實、文字、語格などの誤を正して、文章をつめて見なさい。

火山には、活火山とて、現に噴火するものと、死火山とて、昔

噴火して、今は活動を止めたるものとあり。我國は、火山多くして、其數一千餘座あり。火山の形は、大抵圓錐狀を爲し、其頂上の噴火口には、間湖水を爲すものあり。當時、活火山の有名なるは、肥後の阿蘇山、信濃の淺間山にて、飛驒の乗鞍嶽、相模の箱根山等は、死火山の著しきものなり。

(二) 地震

地震ノ源因ニツキマシテハ、種々ノ説ガアル。一ハ、地下ノ火氣ノタメデアル。二ハ、地層ノ陷落ニヨルケデアル。三ハ、地下ニ裂目ガ出來ルタメデアル。地震ノ種類ニモ、二ツアル。上下動ト水平動トデアル。上下動ハ、震動ガ近クテ、危険デアル。水平動ハ、震源ガ遠イカラ、危険ノ度ガスクナイ。近ク濃美ノ震災ニハ、澤山ノ人命、財産ヲ失ヒマシタ。

右の話ごとを、文のことばに改め、適當につゞけて、一の普通文としなさい。

地震ノ原因ニツキテハ、種々ノ説アレドモ、大別シテ三トス。第一ハ、地下ノ火氣ニ依リテ生ジ、第二ハ、地層ノ陷落ニ依リテ生ジ、第三ハ、地下ニ裂目ヲ生ズルニ依ルト云フ。又其震動ニモ、上下動ト、水平動トノ二種アリ。上下動ハ、其震動近キニアルヲ以テ、甚ダ危険ナレドモ、水平動ハ、之ニ反スルヲ以テ、危険ノ度少ナシ。震災ノ甚シキ例ハ、近ク濃尾ニアリ。此時、幾多ノ人命、財産ヲ失ヒシカ知ルベカラズ。

(三) 公德

公德と申すは、公共に屬するものを愛敬する心を申します。例へば、公園に樹を植ゑたり、往來に、道をよけたり、橋のこはれたのを

繕ひなどして、人々の爲めになることをするのは、皆、公德であります。また、して、其本は、皆、愛の心から、出たものであります。

右の話の文をのほして、一の普通文としなさい。

公德とは、公共に屬するものを愛敬する心をいふ。例へば、公園に樹木を植ゑ、往來に道を譲り、橋梁の破れたるを繕ひなどして、廣く衆人の爲めにするが如し。然して、其本は、皆、愛の心より出でたるものなれば、世の貧人を救ひ、不幸の人を憐むなどは、是れ亦、公德の大なるものなり。

(四) 公益

精神・利益・學校を設け・病院を起し・土地を拓き・鐵道を敷き・有益の發明を爲し・殖産興業の進歩發達を圖ること。

右の字句を用ひ、公德の文の形式にまねて、一の普通文をつ

ゞりなさい。

公益とは、公德を行はんとする精神にて、廣く衆人の爲めになることを起すことをいふ。例へば、學校を設け、病院を起し、土地を拓き、鐵道を敷き、又は、有益の發明を爲し、或は殖産事業の進歩發達を圖るが如きをいふ。

(五) 公園に樹木献納を圖る文

- (1) 縣會に於て、公園擴張の設計を、議決したり。
- (2) 來る四月より、取擴け實行になるべきこと。
- (3) 右の設計は、運動場、築山、泉水を設くるに止まり、樹木は、後日、配置することのこと。
- (4) 風景を添ふるため、地元にて、諸種の樹木を、献納したきこと。
- (5) 同意なれば、近日發起會を開き、町内へ勸誘したきこと。

右のことからを以て、手紙の文を、つゞりなさい。

拜啓某公園義先般縣會に於て擴張設計案通過致し候に付ては來る四月よりは取擴げに著手相成申すべく然るに該設計は區域を廣くし運動場築山泉水等を設くるに止まり樹木の配置等は第二と相成居候かに考へられ候斯くては折角の擴張も風景を添ふるまでに至り申さず候故此際地元たる當町に於て諸種の樹木を献納致し候ては如何に候か御同意に候は、近日發起會を開き町内へ勸誘仕りたく否御返事下されたく候敬白

(六) 伊能忠敬

一、忠敬は、この人で、家は、何をして居ましたか。
一、忠敬は、いくつの時、如何なる學問を修業しましたか。

一、それから後、如何なることを行ひましたか。
 一、結果はいかになりましたか。

右の問にこたへて、それを、一の普通文に改めなさい。

伊能忠敬は、下總の人なり。十八歳の時、家を繼ぎ、勤勉して、家産を治めければ、一旦衰へし家道を再興せり。忠敬年五十に及び、江戸に出て、高橋東岡に従ひ、西洋の曆術を學ぶ。業成りて後、命を受け、全國の沿岸を測量して、十八年の間辛苦して、其圖を調製せり。我國地形の正しき地圖を得たるは、忠敬の賜なれば、明治に至り、朝廷特に其功を追賞して、正四位を贈られたり。

(類題) 地圖

(七) 潜水器

一、潜水器の構造を云ふて見なさい。

二、潜水器に、一條のゴム管あるは、何のためですか。

三、潜水器の效用はいかゞ。

右の問に答へて、それを話の文につゞきなさい。

潜水器は、人が水中にて、働が出来るように、こしらへたものでありまして、其造り方は、ゴム製の著物に、頭は、鐵で胃のようにし、又、兩眼に當る處に、玻璃板をつけて、見えるようにしてあります。空氣を流通させますには、ゴム管が、著物の上の方に付いて居て、それから、陸上の新しい空氣を送り、後頭の邊から、古い空氣を出すように仕掛けてあります。潜水器は、船底の修繕、沈没船の引揚、珊瑚の採集には、必要のものであります。

ハ 輕氣球

輕氣球ハ、薄キ絹ノ○○ニ、ゴムヲ塗り、其上部ニ、開閉シ得ベキ小孔ヲ○●、囊ノ外部ヲ、輕キ網ニテ○○、其下端ニ籠ヲ、○●●●、人此ニ乗ル。囊ニ入ル、瓦斯ハ、石炭瓦斯ヲ○●、此ハ、重サ、○○ヨリ、輕ク、且得易ケレバナリ。瓦斯充テバ、囊脹シテ、高ク飛揚ス。若シ降ル時ハ、小孔ヲ○●、囊中ノ瓦斯ヲ出シ、傘ノ如キモノニ、空氣ヲ染マセテ、徐ニ降ルナリ。

右の○の處に漢字、●の處に、假名を入れなさい。

輕氣球ハ、薄キ絹ノ大囊ニ、ゴムヲ塗り、其上部ニ、開閉シ得ベキ小孔ヲ設ケ、囊ノ外部ヲ、輕キ網ニテ覆ヒ、其下端ニ籠ヲ結ビツケ、人此ニ乗ル。囊ニ入ル、瓦斯ハ、石炭瓦斯ヲ用フ。此ハ、重サ、空氣ヨリ輕ク、且得易ケレバナリ。瓦斯充テバ、

囊脹レテ、高ク飛揚ス。若シ降ル時ハ、小孔ヲ開キ、囊中ノ瓦斯ヲ出シ、傘ノ如キモノニ、空氣ヲ孕マセテ、徐ニ降ルナリ。

三 月

(一) 病院

病院ニハ、多クノ醫員アリ。善キ醫療器械アリ。良效ノ藥品アリ。看護婦モアリ。多クノ病人ヲ收容スルコトヲ得。深切ニ治療ヲ爲ス。貧困者ノ爲メニ、無料ニテ診察ヲ爲シ、藥品ヲ與ヘ、入院セシムルモアリ。死ヲ起シ生ヲ回シ、醫ヲ仁術トイフ。

右の字句を、適當につけて、普通文をつくりなさい。

病院ニハ、多クノ醫員アリ。善キ醫療器械ヲ備ヘ、良效ノ藥品ヲ置キ、又、看護婦モアリテ、一時ニ、多クノ病人ヲ收容シテ、親切ニ治療ヲ施スナリ。殊ニ貧困者ノ爲メニハ、無料ニ

テ診察ヲナシ、藥品ヲ與ヘ、入院セシムルモアリ。此ヲ以テ、病院開ケテヨリ、死ヲ起シ、生ヲ回シ、コト若干ナルカヲ知ラズ、醫ハ仁術ナリトイフコト、病院ニ於テ、能ク當レリト云フベシ。

(二) 學 校

小學校は、尋常と高等とありまして、國民に、必要な學科を、授くる所であります。

中學校は、實業に就かんとするもの、又は、なほ進んで、高等の學校に入らんとするものゝ爲め、高等な普通學を、授くる所で、其上に、高等學校があります。又、女子の爲めには、高等女學校があります。大學は、高尚な理論や、應用を教ふる所で、分科大學と、大學院とあります。分科大學を卒業して、大學院に入り、定め、の試験が済んだ

ものは、博士の學位が授かります。

右の談話をつゞけて、一文となさう。

小學校は國民たるに必要なる學科を授くる所にして、尋常、高等の二に分つ、中學校は、實業に就かんと欲するもの、又は、猶進みて、高等なる學校に、入らんと欲するものゝ爲めに、高等なる普通學を授くる所なり。別に、女子の爲めには、高等女學校あり。中學校の上には、高等學校あり。大學は、高尚なる理論、應用を教ふる所にして、分科大學と大學院とあり。分科大學の卒業生にして、大學院に入り、定規の試験を経たるものは、博士の學位を、授與せらるゝなり。

(類題) 神社佛閣

(三) 中學校の入學手續を聞合す文

(1) 父と相談の上、本月末高等小學三學年を了れば、中學校へ入學を志願する見込。

(2) 入學願書差出等の手續を聞合せのこと。

(3) 先方の人は、中學校の事情を知れる人。

右のことからにより、左の字句を用ひて、手紙の文をつゞれ。

課程を修了の筈、父とも相談の上、中學校へ入學志願、畧決定、未熟首尾よく入學、心許なく、手續を承知、恐縮の至り、

御教示。

拜啓私儀本月末高等小學三年の課程を修了仕るべき筈につき父とも相談の上此後は御地中學校へ入學志願の事に畧決定仕り候へども定めし入學志願者も多く其上に學力未熟につき首尾よく入學出來申すべきは甚だ心

許なく存候へどもともかく入學願書等差出置きたく尊君には右手續御承知に之れあるべく御手数恐縮の至りに御座候へども御教示下されたく願上げ候敬白

(四) 幸福

人世ノ幸福ニハ、〇〇アレドモ、父母共ニ〇シテ、兄弟相〇、身體皆〇〇ニシテ、生業ヲ勤メ、一家團欒、樂シミ暮スコトヲ〇ハ、幸福〇キモノト云フベシ。

右の〇へ漢字を、●へ假名字を入れなさい。

人世ノ幸福ニハ、種々アレドモ、父母共ニ存シテ、兄弟相親シ、身體皆健康ニシテ、生業ヲ勤メ、一家團欒シテ、樂シミ暮スコトヲ得ルハ、幸福多キモノト云フベシ。

(五) 節儉

百二
節檢トハ、取り廣ゲテ、約メ行フコトナリ、即チ、身ヲ養ハ、奢ト飾ト
ナク、無益ノ事ニ、材ヲ費サバルナイフ。夫レ、材ハ限ナキモノナリ、
富メル人モ、材ヲ濫ニ用ヒテ、檢約ナラザレバ、材盡キ、果ハ、我家オ
モ、破ルニ至ルナリ。戒ムベキコトニコソ。

右の文中、誤の箇所を見出して、之を正しなさい。

節檢トハ、取り廣ゲズレテ、約メ行フコトナリ。即チ、身ノ養
ニ、奢ト飾トナク、無益ノ事ニ、財ヲ費サバルナイフ。夫レ、財
ハ限アルモノナリ、富メル人モ、財ヲ濫ニ用ヒテ、檢約ナラ
ザレバ、財盡キ、果ハ、我家ヲモ、破ルニ至ルナリ。戒ムベキコ
トニコソ。

(六) 貧 富

一、世間には、身に襤褸をつけ、あはら家に住み、まづいものを食べ

て、貧しい暮しをして居るものがある。

一、立派な家に住み、美しい衣物を著、うまいものを食べて、富みた
暮しをして、居るものがある。

一、かよーに、暮しに、貧富のちがひのあるのは、平生、己の仕事を精
出して、働くのと、働かないのとに由るわけであります。

右の話を、普通文に改め、それを、適當につゞけなさい。

世には、身に襤褸をまとひ、茅屋に住みて、粗食して、貧しき
生活を爲すものと、高樓に住み、美衣美食して、富める生活
を爲すものとあり。斯く生活に、貧富の差あるは、何に由る
かといふに、是れ全く、平生、己の生業を勵むと、勵まざると
に由るものなれば、能く此道理を知りて、只管、己が業務を
勉むべきなり。

(七) 世界一週

余ハ、世界一週ヲ思ヒ立テ、先ヅ、〇〇ヲ出帆シテ、米國ノ〇〇ニ著キ、夫ヨリ、大陸鐵道ニテ〇〇ニ到リ、此處ヨリ、大西洋ヲ航シテ、英國ノ首府〇〇ニ赴ク。流石ハ、世界第一ノ大都會ナリ、再ビ引返シテ、佛國ノ首府〇〇ヲ見ル。市街ノ美麗、歐洲第一タリ。是ヨリ〇〇ニ至リ、馬耳塞港ニ出デ、歸路ニ上リ、〇〇〇ヲ横ギリテ、蘇士ノ運河ヲ過ギ、〇〇ニ浮ビ、印度洋ヲ航シテ、支那海ニ出デ、〇〇、〇〇ヲ經テ、無事ニ横濱ニ歸着セリ。

右の〇の處に地名海の名を入れて見なさい。

余ハ、世界一週ヲ思ヒ立テ、先ヅ、横濱ヲ出帆シテ、米國ノ桑港ニ著キ、夫ヨリ、大陸鐵道ニテ、紐育ニ到リ、此處ヨリ、大西洋ヲ航シテ、英國ノ首府倫敦ニ赴ク。流石ハ、世界第一ノ大

都會ナリ。再ビ引返シテ、佛國ノ首府巴里ヲ見ル。市街ノ美麗、歐洲第一タリ。是ヨリ里昂ニ至リ、馬耳塞港ニ出デ、歸路ニ上リ、地中海ヲ横ギリテ、蘇士ノ運河ヲ過ギ、紅海ニ浮ビ、印度洋ニ航シテ、支那海ニ出デ、香港、上海ヲ經テ、無事ニ横濱ニ歸着セリ。

(八) 日蝕ト月蝕

一、昔は、日蝕や、月蝕があると、どうしましたか。

一、日蝕は、どうして、できますものか。

一、月蝕は、いかにして、おこるものでありますか。

右の問に答へて、それを、一の普通文につゞきなさい。

昔は、日月の蝕を思ひ恐れて、或は神の怒とし、或は戦争の前兆としたりき。されど、今日にては、天體運行の自然の結

K12 0.8

果なることを知れり。抑、月は、元より光なければ、太陽の光を受けて、我地球に反射するなり。然るに、太陽と月との間に、地球が挟まる時は、月は太陽の光を受くること能はぬ爲に、其光を失ふなり。是れ即ち月蝕なり。又月が太陽と地球との間に入り來たる時は、地球の或部分は、月の爲に遮られて、太陽の光を見ること能はぬなり。是れ即ち日蝕なり。

(類題) 潮汐

國語綴方練習書第三終

國語綴方練習書奥附

明治三十五年三月十七日印刷
全 年三月廿二日發行

正價金拾七錢

編者 啓發館編輯部

東京市日本橋區鐵砲町三番地

發行者 榑原友吉

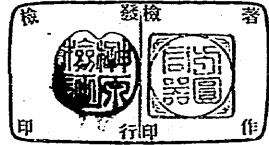
東京市神田區小川町一番四

印刷者 多田榮次

東京市神田區小川町一番地

印刷所 愛善社

不許複製



六盟館圖書發行所

東京市日本橋區
鐵砲町三番地

榑原文盛堂

啓發館編輯部編

一言文 日本 の 地 誌

洋裝美本菊版 全一冊 正價金二拾錢
郵税金四錢

一言文 日本 の 歴 史

洋裝美本菊版 全一冊 正價金二拾錢
郵税金四錢

言文一致は、もはや、議論の時を過ぎて、實行の場合に進んで來て、ゴッ、この言文一致で書いた書物を見るようになったのは、喜ばしいことであるが、學校の教科書とし、家庭の讀本として、地理歴史のたぐひを書いたものは、とんとなひのは、遺憾である。

此二書は、言文一致で書いた、地理、歴史の魁で、尋常の小學校を卒業した兒童にも、高等小學校の兒童にも、中學、高等女學校の初年級の生徒にも、分りやすくあります。地理の方は、旅行體に、歴史の方は、史談で、中のかんじんな處には、繪を入れてあるから、讀むに従つて、趣味が津々と湧いて來る。それであるから、せひ、兒童に讀ませてもらひたい、殊に學校で、賞與品に用ひらるるには、至極適當の書物であると思ふから、一度ためしてもらひたいものである。



